

町小だより

令和2年
4月17日
No. 650
御免町小学校



誰かのために

校長 藤井 聡

学校に子どもたちの笑い声に戻ってきました。冬眠から覚めた学校が息を吹き返し、子どもたちは、『学ぶ喜び』を全身で感じ取っているようです。

学校は、引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止に取り組んでまいります。御不便をおかけすること、願いますこと、我慢していただくことなどが増えますが、御理解と御協力をお願いいたします。

昨年度、子どもたちには、自分自身を見つめ、自分自身に『挑戦』することを呼び掛けてまいりました。職員には、『挑戦』の強要は何も生まない!』と伝え、自発的・内発的な『挑戦』になるよう指導してまいりました。多くの子どもたちが、この趣旨を理解し、新しい自分を発見し、自信を深めました。そんな子どもたちに示した今年度のテーマは、『誰かのために』です。

自分が大切に思う誰か、自分を大切にしてくれる誰か、自分とわずかでもかかわりのある誰か・・・に思いを馳せて、その人のために何かできないものだろうかと考えることは、それだけで価値があり、尊いことです。そして、『誰かのために』と考え、行動することは、自分自身を確かな存在、価値ある存在ととらえることにつながり、自尊感情を高めます。

私が学級担任で、まだ若かったころの話です。学年全体で校舎周辺の清掃活動をしました。活動の終盤、隣のクラスの子どもたちが、ほうき等の片付けを一人の男の子に押し付けているのが見えました。この子は、おとなしく、友達もほとんどいない子でした。その様子を見ていた私は、叱ってやらなければと思い、動き出そうとしました。すると、私のそばにいた女の子（仮にAさんとします）が、私より先に走り出し、男の子のそばに駆け寄り、ほうきやちり取りを一緒に持ち始めました。道具の片付けを終えると、Aさんは何事もなかったかのように自分のクラスの列に並びました。何も知らない学年主任は、男の子とAさんに「遅い。呼ばれたら素早く行動して、集合しなさい。」などと注意をしていましたが、Aさんは、「はい。すみませんでした。」と言うだけで、一言の言い訳もしなかったのです。

学級終会のあと、Aさんに今日の一連の動きを見ていたことを告げ、どうしてああいう行動をとったのかを尋ねました。すると、Aさんはニコニコしながら「別に。普通だよ。」と照れくさそうに答えました。しばらく沈黙があった後、「あの子がかわいそうだったから。それに・・・誰かのために何かできる人は強くて優しい人だって、藤井先生が教えてくれたでしょ。」そう言って走って帰っていったのです。

町小の子どもたちの中にも、Aさんのような子がたくさんいるはずです。これ見よがしではなく、さりげない行為の中に感じる『誰かのために』という思いを育ててまいります。